

教師による生徒への性的経験・性暴力被害アンケートからの分析（2020年5月11～31日実施）

学校教師による生徒への性暴力の特色

（1）安全と言われる学校で、40%以上の性的な被害
刑法には抵触しなくても、明らかに誰がされても不快な発言や行為ばかりであり、虐待と言っても差し支えないものがほとんどだった。

（2）授業の延長、生活指導の延長など、間接的な形が多い
学校は、生徒にとって生活の大半を過ごす場所であり、教師による生徒への性加害は、衣食住全般にわたる範囲で行われている。生徒の体の成長について指摘したり、生徒をかわいがっているという素振りや授業内の指導の補助などで行われており、生徒にとっては普段の授業や生活と違う違和感を感じても、気づくことも指摘することも容易ではないと思われる。

（3）大勢の生徒がいる授業中でも被害が起こっている
体育の授業で被害が起こりやすいことは想像できると思うが、性的な言葉を書かせる、性的な画像を見せられる、教師の私的な性的な体験を聞かせるなど、授業内容と直接関係なくとも被害が起こっていた。

（4）教師だけではなく、学校医や学校を出入りする人間からの被害
教師による被害ということで、回答結果には反映しなかったが、健康診断の時に「女子のみ上半身裸にされる」「健康診断で胸を触られた」など、学校外の者からの被害もあった。ほとんどは健康診断の医師からであった。教師が管理しきれていない状態が垣間見える。

（5）複数の生徒が同じ教師から被害にあっても声をあげられない
集計から、自分も同級生も同じ被害にあっても教師に対し直接伝えられていないと思われた。子どもが、大人である教師が懲戒処分になるような事件のことを直接解決するのは困難であり、大人の介入が必要である。ただ保護者から校長に言っても隠蔽されたケースがいくつか見られ、学校の管理体制に問題があると言わざるを得ない。

（6）複数の教師が他の教師による加害に気づいていても通報していない
教師は基本的に一人でやる仕事であり、他の教師の仕事に介入したり、意見を言う機会がないので、問題行動を見つけてもどう言ってもいいかわからない又は関わらないようにするのはないかという懸念。

（7）一見ポジティブな発言や行為も不快な経験
「交際したい、結婚したいと言われた」「教師と交際していた」という回答が複数あった。対等な関係であればポジティブに捉えられる言葉も、大人である教師から未成年の生徒に向けてされた場合、恐怖や圧迫感、違和感を感じさせる可能性があり、交際そのものに違和感を感じているから、アンケートの回答に出てくるとも言える。

*学校の教師以外の教育者については業種など幅広いため、はっきりした傾向はわからなかったが、学校の教師に比べて「親しみやすい大人」という距離感が近い印象があった。それ以外の点については、上記の学校の教師による被害とほぼ共通する印象を感じた。